

表4.2 木質ペレット利用プロジェクトの整理例(2/2)

効果	効果項目	進捗管理結果 及び 効果の発現状況	考察 (プロジェクト担当者が記入)
視察者の増加等	⑩視察者等の増加	・視察者はなし。	
	⑪市町村の知名度向上	・把握していない。	
悪臭・水質汚染等の軽減	⑫生活環境や自然環境の保全	(該当なし)	(該当なし)
耕作放棄地の減少	⑬耕作放棄地の減少	(該当なし)	(該当なし)
森林の保全	⑭森林の保全	・森林保全面積(目標5ha/年) 1年目:20%→5年目:25% ※3年目には台風により損壊した林道が多く、補修に時間とコストを要している。	・林業振興対策が必要
	⑮CO <sub>2</sub> 固定量の増加	・保全対象林の面積が少なくほとんど固定されていない。	
二酸化炭素排出量の削減	⑯二酸化炭素排出量や化石資源使用量の削減	・二酸化炭素削減(目標30t/年) 1年目:70%→5年目:80% ・重油の使用量削減(目標30kL/年) 1年目:70%→5年目:80%	・化石燃料使用量は明らかに減少しており、その効果をPRする必要がある。
	⑰排出権取引による収益	・排出権取引は行っていない。	
その他	⑱災害時のエネルギー・食料の確保	・ペレットの一部を災害用として常時ストックしている。	・停電時にも利用可能なペレットストーブの導入が必要
	⑲研究開発の推進	・研究開発は特に行っていない。	

#### 4-2-2 地域の課題等の整理

**バイオマス活用に関連する地域の課題や社会情勢の変化等を整理します。**

- ◇バイオマス活用は、地域住民の生活や市町村内の事業者、行政等の多くの関係者の参加が必要です。このため、市町村が抱える様々な課題とも関連します。
- ◇また、災害や原油価格の高騰等、社会情勢もバイオマス活用には影響します。
- ◇「市町村バイオマス活用推進計画」の見直しを検討する際には、このような地域の課題や社会情勢の変化にも対応しなければなりません。そこで、市町村内の関係部署と連携し、各種課題等を整理しておく必要があります。

### 4-2-3 評価・分析

個々の「バイオマス活用プロジェクト」の進捗状況と効果発現状況、地域の課題等を整理した結果を用いて、目標を達成することにとって重要な内部要因（強み・弱み）と外部要因（機会・脅威）を整理する**SWOT分析**と、その結果に基づき、強み・弱み・機会・脅威をクロスさせ、様々な戦略を検討する**クロスSWOT分析**を行います。

#### （１）SWOT 分析

◇前述したプロジェクトごとの調査結果の一覧表、地域の課題等を踏まえ、SWOT分析を実施し、市町村におけるバイオマス活用に関連する強み、弱み、機会、脅威を明らかにします。

表4.3 SWOT分析の例

内部要因 (市町村内)	強み(strengths)	弱み(weakness)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇豊富なバイオマス資源</li> <li>◇バイオマス活用施設が整備済み</li> <li>◇視察者が増加している</li> <li>◇環境問題に関心のある市民の増加</li> <li>◇良質な農産物が収穫できる風土</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇バイオマス資源が広範囲に存在</li> <li>◇副産物の処理に費用を要している</li> <li>◇職員のバイオマスに関する知見が不足</li> <li>◇農林水産業の担い手の高齢化と減少</li> <li>◇森林の荒廃、耕作放棄地の増加</li> <li>◇厳しい市の財政事情</li> </ul>
外部要因 (市町村外)	機会(opportunities)	脅威(threats)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇安全安心な農産物への関心の高まり</li> <li>◇全国的な就農希望者の増加</li> <li>◇再生可能エネルギーへの注目</li> <li>◇国の固定価格買い取り制度の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇原油価格の高騰</li> <li>◇環境規制の強化</li> <li>◇豪雨災害による大量の廃棄物の発生</li> <li>◇大震災への備え</li> </ul>

◇SWOT分析の概要は以下の通りです。

#### 【SWOT分析】

- SWOTとは、強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)の頭文字を取ったものです。主体的に解決できるSとWに対し、OとTは周囲環境として受け入れざるを得ない要素です。
- SWOT分析は、外部環境(機会・脅威)の変化に対応し、自らの内部要因(強み・弱み)を分析しながら、自らの地域の成長と発展のために自らのミッション(使命)・ビジョン(将来像)・戦略課題を導く方法論で、新たな戦略構築に用いるマーケティング分析手法です。

#### 【SWOT分析の概念表】

内部要因 ・人・組織 ・地域資源 ・情報、ノウハウ等	S 強み	W 弱み
外部要因 ・法律、制度 ・消費者ニーズ等	O 機会	T 脅威

## (2) クロス SWOT 分析

◇次にクロスSWOT分析を実施し、市町村におけるバイオマス活用に関する戦略を検討します。

表4.4 クロスSWOT分析の例

		内部環境(経済性、ノウハウ、人・組織等)	
		強み(strengths)	弱み(weakness)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◇豊富なバイオマス資源</li> <li>◇バイオマス活用施設が整備済み</li> <li>◇環境問題に関心のある市民の増加</li> <li>◇良質な農産物が収穫できる風土</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇バイオマス資源が広範囲に存在</li> <li>◇市職員のバイオマスに関する専門知識の不足</li> <li>◇副産物の処理に費用を要している</li> <li>◇農林水産業の担い手の高齢化と減少</li> <li>◇森林の荒廃、耕作放棄地の増加</li> <li>◇厳しい市の財政事情</li> </ul>
外部環境(社会経済環境、地域住民意向等)	機会(opportunities)	<p>■強みを活かし、強化し伸ばす戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆バイオマス関連製品を活用した農畜産物の品質向上、ブランド化</li> <li>◆農林業振興施策の担い手の育成</li> <li>◆普及啓発の実施</li> <li>◆余剰電力の売電や環境価値の販売による経費節減</li> </ul>	<p>■弱みを克服し、補強し伸ばす戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民等の協力を得て、安価に効率よくバイオマス資源の収集拡大を図る仕組みの構築</li> <li>◆副産物の農業利用策の検討</li> <li>◆普及啓発の実施(再掲)</li> <li>◆地域産木材の利用機会の拡大</li> <li>◆視察者の受け入れと観光振興</li> </ul>
	脅威(threats)	<p>■強みを活かし、脅威を回避する戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆余剰電力の売電や環境価値の販売による経費節減(再掲)</li> <li>◆地域住民の協力の下、廃食用油のバイオ燃料化プロジェクトの開始</li> <li>◆災害時にも対応できるバイオマス活用システムの構築</li> </ul>	<p>■脅威を避け、徐々に撤退する戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆バイオマス活用規模の見直しやプロジェクトの中止</li> </ul>

◇クロスSWOT分析の概要は以下の通りです。

### 【クロスSWOT分析】

■SWOT分析で得られた、組織外部環境の機会、脅威と、その組織が内部に持つ強み、弱みの4つの要因を組み合わせ、状況を分析し戦略立案を行う方法です。

■下表にオレンジ部分がSWOT分析の結果です。これらの結果のクロスする部分を、「強みを機会に生かす（強み×機会=積極的戦略）」、「弱みにより事業機会を逃さない（弱み×機会=段階的施策）」、「強みで脅威を回避するまたは事業機会を創出する（強み×脅威=差別化戦略）」、「弱みと脅威の鉢合わせによる環境悪化を防ぐ（弱み×脅威=防衛対策）」、といった課題（戦略）として捉えることで、問題と課題（戦略）の関連性を明らかにするものです。

		内部環境(経済性、ノウハウ、人・組織等)	
		S 強み	W 弱み
外部環境 (社会経済環境、地域住民意向等)	O 機会	<b>■積極的戦略(強み×機会)</b> 強みを活かして、強化し伸ばす戦略	<b>■段階的戦略(弱み×機会)</b> 弱みを克服して、補強し伸ばす戦略
	T 脅威	<b>■差別化戦略(強み×脅威)</b> 強みを活かし、脅威を回避する戦略	<b>■防衛対策(弱み×脅威)</b> 脅威を避け、徐々に撤退する戦略

### ■分析上の留意点

◇SWOT分析、クロスSWOT分析は、例に示したように課題や現状等を箇条書きで抽出・分類し、その中から戦略を導き出すものです。特別な専門知識は不要ですが、現状をよく理解することが重要です。このため、分析作業は、一人で行うよりも複数の関係者が意見やアイデアを出し合いながら進めていくことでよりよい結果が得られると考えます。

## 【参考事例：バイオマスタウンへのアンケート調査結果（平成20年度）】

### Q:バイオマスタウン構想が計画よりも遅れている理由

◇バイオマスタウン構想の取組が遅れている理由は、「資源収集、副産物処理等の課題解決が必要」が最も多く、次いで「採算性が確保できない」となっています。

◇「予定より大幅に遅れている」市町村では、「市町村合併の影響によりバイオマス活用に関する方針が定まっていない」も多くなっています。

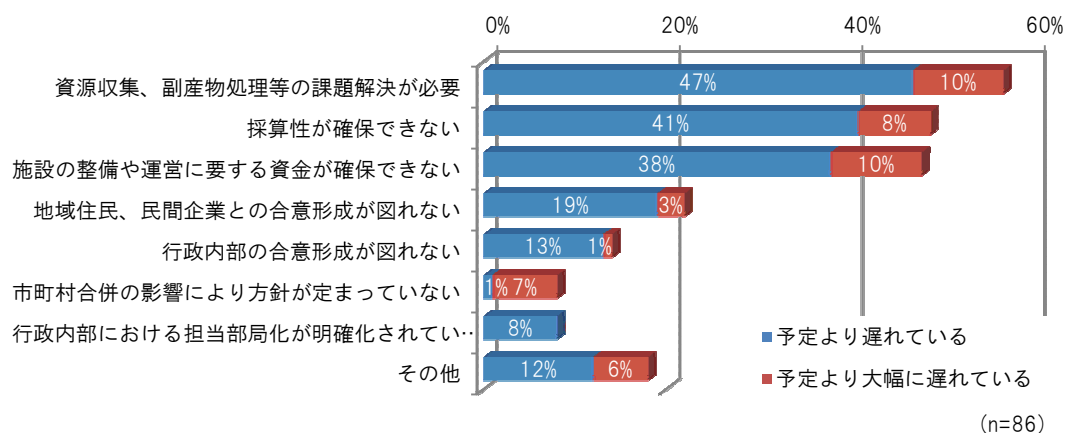


図4.2 バイオマスタウン構想が遅れている理由（複数回答）

出典：平成20年度バイオマス資源活用促進事業報告書より

※平成20年11月28日までにバイオマスタウン構想が公表された159市町村を対象に、バイオマスタウンの現状についてのアンケート調査を実施し、149市町村(94%)から有効回答を得ている。